

◆川部会の実績

課題	テーマ	解決手法	実際の取り組み
●上下流の課題	生き物の棲みやすい川づくり (上下流問題)	本川モデル ・課題と解決の方向性の検討 ・個別課題の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・久澄橋下流の河道内の地形状況について、大同大学、国交省による現地測量を実施した。(平成26年) ・白浜工区では、大同大学による洪水規模に応じたモニタリングが行われ、WGにおいて情報共有が図られた。(平成26～平成28年) ・矢作川漁協との意見交換が実現し、現状と課題の情報共有が進展した。(平成26年) ・土砂管理検討委員会に向けての提案事項となる「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめた。(平成25年) ・小洪ダムの土砂バイパスを視察し、総合土砂管理の知見を深めるとともに、土砂管理検討委員会の進め方について意見交換を行った。(平成27年) ・加茂川の段差改善を目的として、魚道の設置を検討し、自然石による棚田式魚道を設置された。WGではその後の生き物の生息状況について情報共有を行っている。(平成26～29年) ・矢作川研究所がアユの生息環境の復元を目的として取り組んでいる阿摺ダム下流の実験状況(河床環境の改善)について現地視察を行った。また、同場所の生物相について愛知工業大学の研究結果を周知した。(平成29年～平成30年)
	生き物の棲みやすい川づくり (上下流問題)	家下川モデル ・課題と解決の方向性の検討 ・個別課題の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・水位やゲート敷高等の高さなどの移動阻害箇所の測量及び現地調査を実施するとともに、各施設の管理団体を整理し、段差の解消について検討を実施した。(平成25～平成27年) ・「草の植え付け」「水田魚道」「越冬マス」「ブロック水制・堰(越冬場所)」などの設置効果について情報共有した。(平成25年) ・家下川湛水防除事業(上郷2期地区)の概略設計の検討状況について意見交換を行い、排水機場周辺の浚渫など生き物の棲みかみに配慮した施工が行われた。また、その後の状況について情報共有を行った。(平成26～平成29年)
●地先の課題	地先の課題	地先モデル: ・(仮)専門家リストの作成 ・個別課題の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体へのヒアリングを継続するとともに、活動団体を掘り起こし、広く活動団体の状況を把握するため、新たにアンケート調査を実施した。(平成25～平成26年) ・活動団体リストを概ねまとめ終わり、活動団体マップの作成に着手した。(平成25～平成27年) ・専門家リストのたたき台を作成することができた。(平成26年) ・流域圏担い手づくり事例集をWGで取り上げ、協働して取り組むことになった。取材先の選定にあたっては、過去に作成した専門家リストを活用した。(平成29年～平成30年)

【川部会】

○できたこと

- ・川部会における検討内容が、加茂川の段差解消や家下川湛水防除事業に反映され、テーマである生き物が棲みやすい川づくりに貢献した。
- ・本川や支川の課題について、情報共有と意見交換を行った。
- ・山部会と協働して、流域圏担い手づくり事例集をとりまとめた。

○もう少しでできたこと

- ・各課題対して川部会が主導となる活動
- ・土砂に関する議論

○できなかったこと

- ・流域の化学物質の移動についての議論
- ・海部会との協働